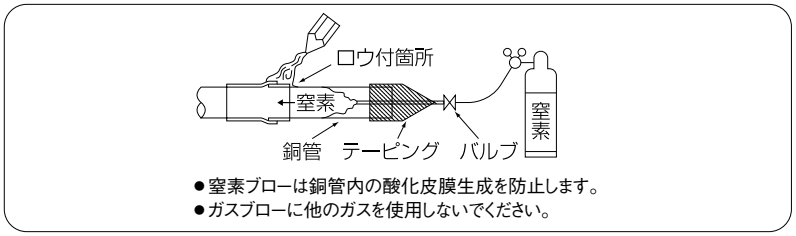
冷媒配管関係

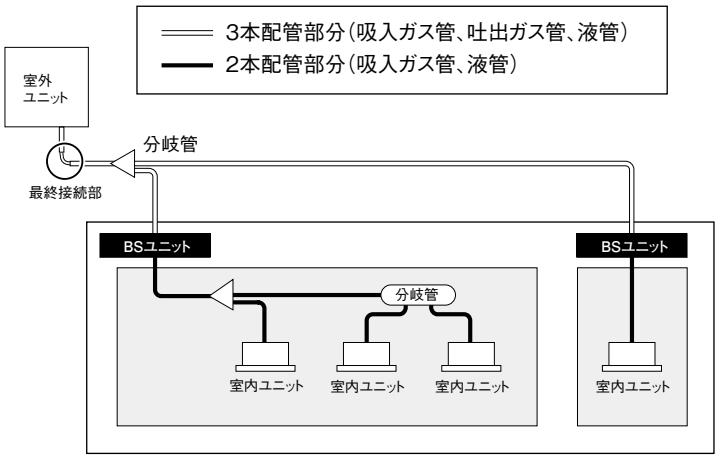
[冷媒配管工事のご注意]

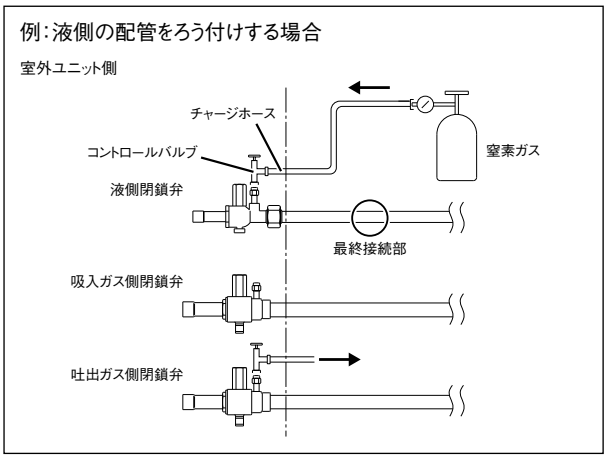
●ロウ付をする場合は、銅管の一端より窒素ガスを流しながら行ってください。(ロウ付時の絶対条件)その時、銅管の入口をテープでふさいで空気が入らないようにしてください。窒素ガスを流さずロウ付しますと圧縮機の損傷等、重大な故障につながります。



- 市販の酸化防止剤は冷媒や冷凍機油に悪影響を与えますので絶対に使用しないでください。
- 配管内壁は水分やほこりなどのない、きれいな銅管を使用してください。
- (逆)鳥居配管施工は避けてください。圧縮機に重大なダメージを与えるおそれがあります。
- 配管の曲げはできるだけ大きな半径で行ってください。また配管の曲げなおしを何度もしないでください。
- 銅管の切断は銅管カッターを使い、管の内側にカエリがでないよう切込みを少なくして切断してください。
- 切断後の内面取りは専用工具を使い切断面のカエリを取ってください。
- フレア加工は専用の拡管工具を使い拡管してください。
- フレアナットの締め付けはダブルスパナで行い、締め付けトルクを適正にしてください。締めすぎによるフレア部破損に注意してください。
- 拡管前にフレアナットを入れておいてください。又、フレアナット接続時は、フレア内・外面全面に圧縮機に使用のものと同等の冷凍機油を塗り、最初3回～4回手で回してネジ込んでください。
- ロウ付は、リン銅ロウの使用をおすすめします。
- ロウ付後は、濡れ雑巾等によりフラックスを除去してください。
- 冷媒追加充填時は室内ユニットの電源を入れて行ってください。
- 配管の最終接続部をろう付けする場合、ろう付けする配管側閉鎖弁のサービスポート(1カ所)より、窒素を封入し、未使用の閉鎖弁サービスポート(1カ所)より、配管外へ窒素を排出してください。

例:液側閉鎖弁から窒素を封入する場合、吸入ガスまたは吐出ガス側閉鎖弁どちらか一方より窒素を排出してください。
注意:窒素ブロー前、室内機・BSユニットの電源は投入しないでください。(BSユニット・室内機の膨張弁が閉止し、配管内を窒素が行き渡らないため)





法令に関するご注意

●冷媒追加充填量の記載
フロン類を追加充填する場合は、室外ユニット貼付の記載シールに消滅し難い油性等のインクでフロンの種類・数量を記入しなければなりません。

●冷媒回収・破壊
フロン類をみだりに大気中に放出することは禁じられています。破棄する場合は、フロン類の回収・破壊が必要です。